

平成 26 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 生活科学専攻）解答例

問 1（40 点）

【採点のポイント】

- ・ユニバーサルデザインの説明がされていること
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインの必要性が述べられていること
- ・これからの社会の変化にふれられていること
- ・解答全体の論理に一貫性があること
- ・基本的な文章表現ができていること

【解答例】

モノや空間のデザインはその美しさや新しさに重点がおかれ、使いにくいと感じることが時々ある。とくに高齢者や体が不自由な方にとって特別な配慮が必要なことが多く、移動や居住などにおける障壁を取り除き、安心して暮らせるバリアフリーという考え方が浸透してきた。しかし、高齢者や障がい者のためだけのデザインやモノづくり、環境整備には大変な時間と費用がかかるうえ、それぞれの特性に合わせた改良により、逆に使用者が限られ、使いづらくなる場合も出てきた。そこでこれからは、特定の使用者のためだけではなく、年齢や性別、体格、身体機能などの異なるすべての人が無理なく、利用しやすいデザイン、つまりユニバーサルデザインを考え、実現していくことが重要となる。今後、多様な社会に対応するために、また人々が快適に生活していくためには、ユニバーサルデザインを社会に取り入れることが必要不可欠である。（383 字）

問 2（30 点）

【採点のポイント】

- ・ユニバーサルデザインの原則が理解できていること
- ・具体的なユニバーサルデザイン例と資料 2 の該当する原則が提示されていること
- ・ユニバーサルデザインの具体例は低床電車のほか、自動ドア、自動販売機、案内図など
- ・基本的な文章表現ができていること

**【解答例】**

低床電車。バスの乗降口は狭く大きな段差があり、学生でも乗りにくい。それに対し、低床電車は床が停留所と同じ高さで乗り降りが容易である。原則6の少ない身体的負担が配慮されている。また、低床電車内は通路が広く、車椅子の方や高齢者、幼児だけでなく、すべての人が安全で利用しやすいよう工夫されている。これは原則7の利用のために適切な大きさと広さが提供されているかを考慮したデザインであると言える。(196字)

**問3 (30点)****【採点のポイント】**

- ・デザインの領域は限定しない
- ・ユニバーサルデザインの原則が理解できていること
- ・不便を感じる現状が述べられていること
- ・発想が豊かで、具体的なユニバーサルデザインの例が提示されていること
- ・基本的な文章表現ができていること

**【解答例】**

自宅近くの歩道は水害の後に舗装し直されたが、排水溝に雨水が流れ込みやすいよう傾斜が大きいため、若者でも歩きにくい。そこで、次のようなデザインを提案したい。車イスの方やつえを使う高齢者も歩きやすいよう歩道の幅を広くする。排水には浸透アスファルトを使用し、傾斜を小さくする。地面は凹凸をなくして自転車も通れるようにし、安全のため歩道と色分けする。さらに、点字ブロックも分かりやすい位置に配置する。(196字)